

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	ぐんぐんみなと 児童発達支援			
○保護者評価実施期間	2025年2月4日 ～ 2025年2月28日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	8
○従業者評価実施期間	2025年2月4日 ～ 2025年2月28日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年4月10日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	平日には、一人ひとりの児童に合わせた個別学習の時間を確保しており、特性や発達段階に応じた支援ができています。	個別学習用のスペースとして専用の個別空間を設けており、マンツーマンで集中できる環境を整備しています。教材についても、児童の特性や伸ばしたい力に応じて工夫し、無理なく取り組める内容を準備しています。	個別学習の時間を「学習のための時間」として切り出すのではなく、5領域（健康・生活・人間関係・環境・言葉）を意識した総合的な支援の中に自然に学習要素を組み込みながら、生活動作や日常に役立つ力の育成につなげていきます。具体的には、微細運動・SST（ソーシャルスキルトレーニング）・ビジョントレーニングなどを児童に応じて柔軟に取り入れ、教材も個別に作成するなど、より深い個別支援を実践していきます。
2	平日は、日替わりで多様な集団活動を行い、毎日異なる刺激の中で児童が楽しみながら参加できるよう支援を行っています。活動の中では、遊びや運動、学習の要素をバランスよく取り入れ、社会性や協調性の育成につながる支援が実施されています。また、土曜・祝日にはイベントを実施しており、日常とは異なる体験を通じて児童の意欲や楽しみにつなげています。	児童の特性や発達段階に応じて、必要な力の育成を意識した運動要素や、順番を待つ・集団で協調するなどのスキルが自然に身につくよう配慮した支援を行っています。また、内容がマンネリ化しないよう、同じ活動テーマでも構成や進行を工夫し、職員間で都度話し合いながら新しいアイデアを取り入れています。	活動ごとに構成を見直し、児童の生活全体に生きる力を育めるよう、より意図的なプログラム設計に取り組んでいます。土曜・祝日のイベントについても、特別感を活かしつつ、学びや社会体験につながるような構成へとさらに工夫を加えています。
3	児童の支援にあたっては、日々の支援内容や変化を把握するため、園や関係機関等と都度連携を図り、情報共有を継続的にしています。	月に1回以上、園やその他関係機関と連携を図りながら、こどもが生活する複数の場面で支援に一貫性が持てるように努めています。支援者間での認識のズレを防ぎ、共通の視点で関われるよう、支援内容や方針についての確認・共有を丁寧に行っています。	園と事業所など、1対1の連携にとどまらず、ご家庭やその他の関係機関と包括的な連携を築けるよう働きかけを強めていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修等の提供は実施できていません。	プライバシー保護の観点や、保護者同士の交流に対して慎重な姿勢を持たれているご家庭もあり、全体での開催や企画が難しい面があります。ただし、個々のご家庭に対しては、必要に応じた情報提供や助言などを随時行っており、個別対応による家族支援は継続的に実施しています。	これまでの個別対応の経験を踏まえながら、保護者のニーズや参加のしやすさに配慮した形で、家族支援プログラムの在り方について検討していきます。無理のない範囲で、保護者の声を丁寧に把握しつつ、家族支援のあり方を少しずつ見直していくことを目指します。
2	父母の会や地域住民を招待するような機会を設定しておらず、保護者同士の関わりや地域との関わりが少ない。	こちらもプライバシー保護の観点から、他家庭との接触や外部との関わりに慎重なご家庭も多く、交流の場を一律に設けることが難しいと感じています。また、これまでの中で明確な要望も少なかったことから、積極的な機会設定に至っていない側面もあります。	保護者様からのご希望やご意見を丁寧に伺いながら、必要に応じて交流の機会や地域との関わりをどのように設けていくか、慎重に検討していく必要があると考えています。
3	第三者による外部評価は実施しておらず、事業所内や保護者様、相談支援事業所などの関係機関からのご意見をもとに、業務改善を進めています。	身近な関係者からの意見は即時の対応につながりやすい一方で、評価の客観性や事業所全体の視点からの振り返りには限界があると感じています。そのため、評価の幅を広げていくことが今後の課題です。	第三者による外部評価の必要性や方法について、他事業所の事例なども参考にしながら慎重に検討していきます。導入の目的やメリットを職員間で共有し、支援の質向上につながるかたちでの実施が可能か、段階的に模索していきます。